昔のすがたを今に　木でつくられた船

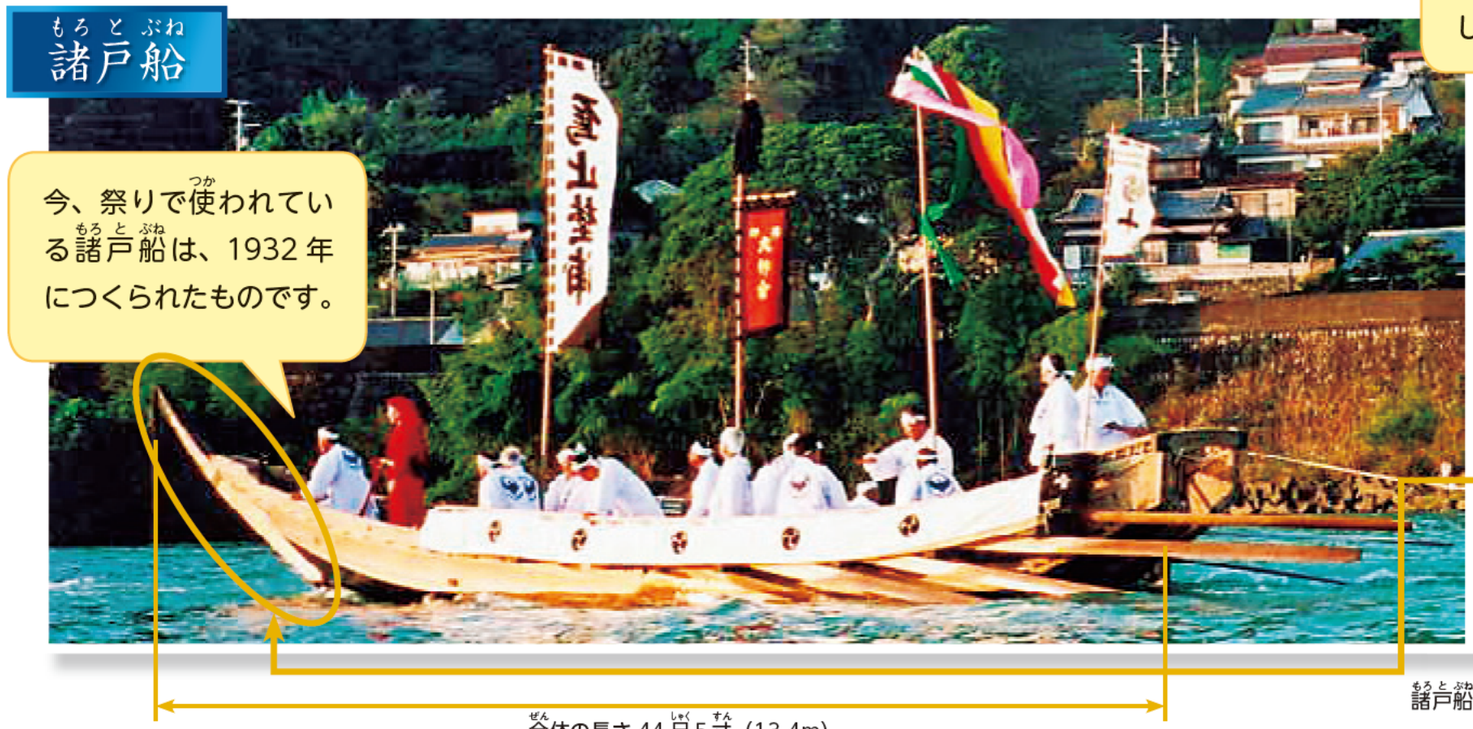
諸戸船・御船祭

紀宝町の諸戸船は、三重県のたからとしてみんなで守ろうとしています。

なぜ、諸戸船を守ろうとしているのでしょうか。

諸戸船は、戦国時代に活やくした、海で戦う水軍の中心的な船に、にています。

海で戦うには、すばやく動く必要があります。そのため、船の横はばが、せまくなっています。広いところでも 2.1 m しかありません。



諸戸船

三反帆船
（紀宝町提供）

三反帆船も、昔、よく熊野川で使われていた、木でつくられた船です。

二つの船の先たんをくらべてみよう。

Q. どうして、諸戸船は三反帆船にくらべ、先たんが立っているのでしょうか？

A. 波やうねりのある海でも、うまく進むことができるからです。諸戸船は、船の先たんの部分がとがっていて、波を切るのに都合がよくなっています。この形は、くじらやかつおをとっていた船にみられる形です。

諸戸船・御船祭

御船祭

毎年10月16日に熊野速玉大社の「御船祭」が行われます。諸戸船は、この祭りの中で、熊野速玉大社の神様を乗せた船をひっぱって案内するという重要な役目をたん当しています。諸戸船には、鵜殿地いきの人たちが乗りこみ、ハリハリおどりを行います。

この船に神様を乗せて運ぶそうです。神幸船といいます。

諸戸船が神幸船を案内しているところ
（紀宝町教育委員会提供）

この赤い衣しょうを身につけた人が、かい（船をこぐための道具）を回して船の行く手をはるかに見わたすしぐさの「ハリハリおどり」をします。

ハリハリおどりや御船祭についてもっと知りたい人は、三重県のWebページにあるインターネット放送局を見てみよう。

http://www.pref.mie.lg.jp

御船祭では、みこしで運ばれてきた神様は、熊野川の川原で神幸船にうつされます。諸戸船は、その神幸船をひきながら、熊野川にある御船島を3周し、川向こうに案内します。右の写真の島が、御船島です。

諸戸船が神幸船をひいて、御船島を回っている様子
（紀宝町提供）

早船競漕（紀宝町提供）

左の写真は、みこしから神様が神幸船にうつされるのを合図に行われる船のレースの様子です。このレースを「早船競漕」といいます。

広報きほう（紀宝町）、ほかから作成

考えてみよう

1 諸戸船の特ちょうはどんなところですか。
2 諸戸船は、どんなときに活やくしていますか。
3 御船祭の特ちょうは、どんなところですか。また、どうして、そのような特ちょうがあるのだと思いますか。
4 どうして、諸戸船を守ろうとしているのだと思いますか。
5 あなたの町にも、地いきのたからとして守っていきたいものがありますか。調べてみましょう。